

令和高島未来塾



塾長 飯島 静子

■ 塾長コメント ■

高島は、世界文化遺産としての歴史、住む人々によって培われた文化、すばらしい豊かな自然や景観を有する離島です。多くの人々とのふれあいの中で、本には書かれていない、住んでいた人だけが語れる貴重な高島炭坑時代の生活体験や文化があることを知りました。

今も残る高島の人々の生の記憶は、高島および長崎市民の“宝”です。私達は、それらを収集、これまで学んできた歴史の事実と重ね合わせて整理、記録し、次世代へ継承しようと活動しています。

■ 塾の目的 ■

塾の目的は、高島の歴史・文化・景観を、長崎の宝として活かし高島の活性化をめざして活動することです。令和4年度は、「高島炭坑・北溪井坑」を「学ぶ」「見る」を中心に、人々の「高島の思い出」を「カタリベ」として収集、記録し、高島の歴史の証言として未来へ語り継がれることを目指しました。

■ 塾の研究・活動内容 ■

1. 「北溪井坑跡の地下遺構」講演会の開催

「北溪井坑跡の地下遺構」は、発掘調査によって何が分かり、何がわかったか。今後どう保存整備するのか等を知ることが目的に開催しました。講師には、平成16年から平成

28年までの第六次の北溪井坑跡発掘調査を学芸員として担当されました長崎市文化財課宮下雅史氏にお願いしました。

発掘調査の概要と結果および今後の整備計画について詳しくお話いただきました。

主な出土遺構は、「ボイラー施設跡」「石組遺構」「捲座推定地の遺構」でした。「ボイラー施設跡」の検出・確認は、近代西洋技術の蒸気機関導入の物証であり、さらに機械設備の土台とみられる石組遺構などの検出は、在来の技術・材料と西洋技術・材料の併用の物証であるとのことでした。多数の文献資料や発掘現場写真を使ってわかりやすく説明頂きました。参加者全員「大変良かった」とのアンケート結果でした。「知らない事ばかりだったが、初心者でもわかりやすかった」との感想もありました。

長崎市の継続した発掘調査及び30年整備計画の進展に期待すると共に「北溪井坑跡」について学び、活かし、伝える活動を進めていきたいと思えます。



講演会風景&集合写真

2. 「古地図・古写真片手に高島炭鉱・島めぐり」の開催

秋晴れの中、総勢17名の島めぐりを実施しました。徒歩とバスを利用し、塾生による古地図・古写真の説明で往時の高島炭鉱を偲びながら、今を見つめるコースを設定しました。

写真家・鶴沼享氏の協力を得て、閉山前の写真撮影時の二子竪坑、二子斜坑の様子を伺うことができました。かつて全自動中央制御

室があった二子豎坑跡は、草むらに囲まれ、金網の中で、その坑口を天空に開け雨ざらしのままでした。また二子斜坑跡は、かつての石組や煉瓦組があり、コンクリート擁壁の中に曲げられ鉄筋がみえるのみでした。足元のボタについて説明を受け、かつての炭鉱の痕跡を確認できました。

二子島の散策後、高島石炭資料館を見学し、そこで、”絆“の方々による展示物の説明を受けました。当時の生活の様子や展示物の夕顔丸、霧笛、高島炭鉱坑内構造等興味深くうかがいました。最後は、資料館の床の大型地図を見ながら、今日1日のコースを振り返り、島めぐりを締めくくりました。

参加者へのアンケートでは、「歴史」「高島の観光」、特に「グラバー別邸」に興味がある方が多く、また参加した若者の中に「はじめて石炭を見れて、触れて嬉しかった」との感想もありました。これからの高島紹介への新たな視点が見つけれられた島めぐりでした。



チラシ



ガイドマップ



晴天の中集合写真



二子豎坑前の鶴沼亨氏の説明風景

3.「あなたの高島の思い出を冊子に残しませんか？」プロジェクト

高島に住んでいる、住んだことがある、訪れたことがある方等に「あなたの高島の思い出を冊子にしませんか？」と広報し、原稿を

募集しました。お一人お一人の高島の想いを“生の声”“かたり”として収集し「タカシマ カタリベ」として小冊子に記録収録しました。インタビュー記録、寄稿文、手紙文、高島在住の方々の聞き取り文、そして塾生の活動報告です。聞き取りによるお話は、塾生による文章化の手伝いを行ないました。



高島地区高齢者
ふれあいサロン”絆”

■ 塾活動の成果 ■

長崎伝習所「令和 高島未来塾」としての活動は最後になります。小冊子「タカシマ・スケッチブック」「タカシマ・シマメグリ」「タカシマ・カタリベ」三冊を令和 高島未来塾の足跡として残すことができました。それは何より、展示会にご来場頂きました方、講演会、島めぐりにご参加頂きました方、そして何度もお話を聞かせて頂きました高島高齢者ふれあいサロン”絆”の皆様、高島地域センターの皆様との交流と支援に支えられていたからです。お互いの心の交流があって可能となったことと感謝申し上げます。小冊子は、長崎市内全図書館・図書室に閲覧できるよう配布予定です。目を通して頂き、さらなる交流の輪が広がり、ゆっくりと対流がおきることを願っています。

また今年度は1年通してZoomによるハイブリット型の定例会を開催することができました。ライブ配信で遠方の塾生との交流ができたことは、全国的視野に入れた活動への足掛かりとなる大きな成果の一つとなりました。

今後も、これまでの活動で発見できた高島および長崎市民の“宝”を「学ぶ」「見る」「協働」のキーワードで、さらに深め、高島の未来へ「語り継ぐ」活動を進めていきたいと思ひます。